

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① とうきょうと
の けさ
の きおん
。

② きょう
は、 あつく
もなく、 さむく
もない。

③ ざん しよ
残がまだまだきびしく、 たいちよう
が わるい
。

④ かんき
冬のおおわれる。

⑤ あたたかい
スープをいただく。

⑥ むかし
、 みやこ
は きょうと
にあった。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① 彼が□
なげた
その□
いつきゆう
が□
めいあん
を□
わけた

② 彼の□
なげる
は□
たま
はととても□
はやく
、□
うつ
こ
とができない。

③ □
だしや
は、□
くらい
□
ひようじよう
情でベンチに□
かえって
いった。

④ □
えんとう
とは□
とおく
に□
なげる
ことです

⑤ 大島行き□
おおしまゆき
□
ふね
は、□
そくど
を□
あげた

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字をかきましよう。

おく き
送りがなにも気をつけましよう。

① □^{はは}は、□^{はんたい}がわの□^{ほどう}を□^{あるいて}います。

② ビート □^{ばん}をもとの□^{ばしよ}に□^{かえす}。

③ □^{いえ}の□^{ちかく}の□^{さか}は、とても□^{きゆう}です。

④ □^{いぬごや}を□^{つくる}ために□^{いた}を□^{かって}き
ました。

⑤ □^{げつようび}この□^{ほん}の□^{へん}きやく□^びは、□^{らいしゆう}の
です。

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字をか
かんじ
書きましよう。

おく
送りがなにも気をつけましよう。

① ギョウザの □ を □ 。

② □ を □ ために □ にならぶ。

③ この □ は、わたしには □ ます。

④ □ なみうち
ぎわにずっといたから □ ひ
なつた。 □ ふが □ あかく

⑤ □ たいふう
が □ ちかづき
□ は
ろう
□ ちゅうい
ほうが □ であ

つぎ ぶん
次の文の□にあ
かんじ か
はまる漢字を書きましよう。

おく
送りがなにも気をつけましよう。

① しよくぶつ
□が、
はたけ
□に
ね
□をはっている。

② は
□がおいしげっている。

③ はたけ
□に
だいこん
□を
うえる
□。

④ やま
□の木々がみごと
きぎ
にこう
□
よう
している。

⑤ おにぎ
ついで、
□
もの
かげにかくれる。

国語 三十七 (書き)	第二学年の漢字(書き)	名前	年	組	番
-------------------	-------------	----	---	---	---

取り組んだ日 月 日

つぎ ぶん
 次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
 送りがなにも気をつけましょう。

① だい
 □ すきな □ し
 を、おぼえている。

② もって
 □ きたあめを
 ひとしく わける
 □ 。

③ ちようし
 □ がよくなるまで、しずかに
 □ まっ
 □ 。

④ うごき
 □ どれくらい
 □ を □ じ
 ぞくできるか
 □ しらべる
 □ 。

⑤ こうせん
 □ でかけっこをして
 □ いっせう
 □ になる。

つぎ ぶん
次の文の□にあはまるかんじをか
に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① あぶら
□であげるのには □
りゆう
がある。

② きてき
□を □
ならす。

③ この □
じんじや
の □
ゆらい
を □
しらべる。

④ ゆ せい
□性ペンで □
ふえ
に □
なまえ
を □
かく。

⑤ やくしよ
□に □
しんこく
告のとどけをだす。

⑥ かみさま
□にいのる。

⑦ たいかい
□へのさんかを □
もうしこむ。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① その はあの の です。

② ので、 に して なさい。

③ な 。

④ ひ に を 。

⑤ が 。

⑥ 的 に いる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字をか
き

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① この□みずうみ
はとても□ふかい。

② □しんや
すみだがわ
に隅田川の□かりゆう
に□ついた。

③ □かわ
の□ながれ
が□はやい
ので□およいで
はいけない。

④ □おくたま
奥多摩□こ
に□こおり
がはる。

⑤ □ひょうざん
を□みた
ことがある。

⑥ □きよう
の□たいいく
は□すいえい
です。

つぎ ぶん
次の文の□にあはまるかんじをか
に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① ひつじ ようす
□の□を□。
みにいく

② うつくしい さま
とてもおひめでした。

③ び かん いく
□じゆつ□に□。

④ ひまわり
この□のセーターは、はだざわりがよ

く、しあわせ きもち
□な□になる。

⑤ たいへいよう じかん しま ころもへ
□にうかぶあの□で、とても□
な□をすごした。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① まみなみ の の を しゃしん
□ の □ の □ を □ におさめる。

② まん いん でんしゃ に のる。
□ □ □ □ □

③ どうぐ を うまく つかえず、 ふ しょうした。
□ □ □ □ □

④ トウキョウダルマガエルを そだてる。
□ □ □ □ □

つぎ ぶん
次の文の□にあはまるかんじをか
きましよう。

おく
送りがなにもきをつけましよう。

① かぞく
で つぎ
の すいじょう
バスに のる
。

② お いしや
さんにみてもらよう。

③ じかい
の たいいく
の じゆ ぎょう
は、 てつ
ぼうです。

④ じぶん
の たんしよ
はよくわかっている。

⑤ だんだん ひ
が みじかく
なってきた。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① びょういん
□で じゆ
□しんする。

② こがねい こうえん
小金井公園について □ しゆざい
材する。

③ かんじ
□テストを うける
□。

④ けい
□かいなフットワークでボールを とった
□。

⑤ ぶん かさい
□で、 おうじ
□の やく
□をすることになった。

⑥ おもった
□よりも かるかった
□。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字をか
書きましよう。

おく
送りがなにも気をつけましよう。

① ほん ととのえた
□を□ら、そうじは□
おわり
です。

② しゅう
□りよう□ま
ぎわにお□
きやく
さんが□
きた
。

③ どうろ
□にイチヨウの□
は
が□
おちて
いた。

④ ほう
□か□ご
に、□
そだてた
チヨウを□
の
に□
はなした
。

⑤ いしの□
らっか
に□
き
をつけて、□
せいれつ
して□
あるき
ましよう。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① あまりのこわさに ひめい をあげる。

② あいて の かなしみ を かんじる ところ。

③ みらいの とうきょう を ぞうする。

④ きゅうそく をとって、 いき を ととのえる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① はは びょうき
□が□だったので、かわりに八百屋

かいもの
さんに□に□。

② やまい き
□は□から。

③ にわ こ
□にそう□がある。

④ おくじよう こつてい
□から□をながめる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字をか
きましよう。

おく
送りがなにも気をつけましよう。

① じつ けん で けんきゆう に とりくむ
□ けん で □ に □

② かき み かもる
柿の□をカラスから守る。

③ しゆ び あんしん
□ 備がよいので □ だ。

④ きよう とう やすい
□ は、なつ □ が □ 。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① あたらしい たいいくかん
はまるで やかた
館のようだ。

② しゆくだい
の よてい
をれんらく ちよう
に うつつ
。

③ きゆう
でんの ような やん
にとまった。

④ お みや
まいりに で
かける。

⑤ ピントを さだめて
、 しやしん
をとる。

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① せかい を たび する。

② しんぶん を よんで よ の なか のでぎざとを

しる。

③ かぞく で おおしま りよう に いく。

④ にほんれつとう には、 おおく の がつがある。

⑤ かいがん ぞいに、 むこう の きし まで あるく。

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① はな から ち が でた。

② じびか に いく。

③ しんちよう、たいじゆう、けつ えきがたを かく。

④ は をみがけば、身支度(みじたく)が おわる。

⑤ けんし を ゆび でさわってみる。

⑥ お に し もんがついている。

国語
三十一十二
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字をか
かんじ

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① せんしゆのかつやくに している。
きたい

② しんぱい
 ごとを する。
そうだん

③ あいて
 のことを
かんがえて
こうどう
する。

④ しんぶん
 が たつされた。
はい

⑤ めんだん
 の を する。
てがみ くばる

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① □ どうきようどちよう
庁は、□ しんじゆくく
□ にししんじゆく
□ にちようめ
に

ある。

② □ きゆうしゆう
の □ ふく
岡 □ けん
から □ きました
。

③ お □ どう
ふを □ にちよう
□ かい
に □ いく
。

④ □ づい
れいをかける。

⑤ お □ どう
ふは、□ だいず
という □ まめ
から □ つくられる
。

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① はし
をわたると浅草 えき
が みえて
くる。

② みなと
の ちかく
にあるゆうびん きよく
。

③ にほんばし
 ゆき
のバスに のる
。

④ じょうせん
した。 ふね
が、小笠原 おがさわら
に むけて
 しゅつごう

⑤ ほどうきよう
を つかって
 ほんたい
がわに いく
。

国語
三十一二十五
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字をか
きましよう。

おく
送りがなにも気をつけましよう。

① おう だん ほどう をわたる。

② ちゆうおう の ちゆうおう を むく。

③ すすむ ほうこう を きめる。

④ しんろ を けつてい する。

⑤ にもつを よこ に うごかす。

つぎ ぶん
次の文の□にあはまるかんじをか
に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① うた れんしゅう
□の□をする。

② あそぶ
□のときのルールをがっきゅうかい
できめた□。

③ ゆうえんち あそぶ
□で□。

④ さく ねる
□せんを□。

⑤ おどりを ならう
□。

⑥ なつやすみ あさ べんきょう
□は、□のうちに□
した。

国語
三十一二十七
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字をか
かんじ

おく
送りがなにも気をつけましょう。

①

じゆ

ぎよう

が

おわった

ら、

としよいいん

は

あつまって

ください。

②

かかり

の

しごと

が

おわった

。

③

おう

に

つかえる

。

④

としよかん

で

ほん

を

よむ

。

⑤

しゆうかい

にかん

けい

のある

ひと

は

しゆうかい

して

ください。

国語
三十一二十八
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① へいわ
をねがう。

② しぎ
をたてて、 なんばい
になるかを けいさん
する。

③ たいら
な めん
を うえ
にする。

④ もんだい
がたくさんある。

⑤ とい
と こたえ
。

国語
三十一二十九
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあはまるかんじをか
に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① これはゆうめいな
さつきよくか
が
つかった
ピ
アノです。

② わたしは
じぶんしや
に
のり
、そのばから
さった
。

③ このおもちゃは
きよねん
しやう
したときはち
やんと
うごいた
。

④ 過
か
こ
の
ほろそろう
をふり
かえる
。

⑤ まがりかど
まで
おくる
。

国語
三十三
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の □ に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① おもい にもつ を 背 せ おう
。

② おきて すぐに たいじゅう
をはかる。

③ きりつ をして あさ のあいさつをした。

④ りようほう の はこ を あける
。

⑤ こばん を つみ かさねる
。

つぎ ぶん
次の文の□にあはまるかんじをか
きましよう。

おく
送りがなにも気をつけましよう。

① むかし は すみ ひ をたいて ゆ をわかした。

② せん とう のおふるは ひろくて きもち がいい。

③ せきたん を はこぶ のに く ろうした。

④ くるしそう だったので、 たすけ にいった。

⑤ にかい くすり を のむ。

⑥ いきおいをつけるために じよそう をとる。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく き
送りがなにも気をつけましょう。

① その□の□は、□に□。
ぎん さら しょうわろくじゅうねん つくられた

② □の□が□。
だいいじゆつかい うんどうかい はじまった

③ □の□を□いる。
かいし あいず まって

④ ドアを□。
あける

⑤ □のページを□。
だいいっしょう ひらく

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① ぶん
 がなくならないように する。

② へや
 の に がたくさんある。

③ しなもの
 を に 。

④ かぶとむしが しまった。

⑤ あきない
 がうまくい。

国語
三十一三十四
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① たいよう
太陽がのぼった。

② おばけに おい
かけられるゆめを みた。

③ かせき
をたまたま ひろった。

④ りよう り
を つい
かする。

⑤ お れい
の てがみ
を かく。

国語
三十一二十五
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字をか
書きましよう。

おく
送りがなにも気をつけましよう。

① ひつ
□じゆんを
しらべる
□。

② よしの
くん
□は
ふで
の
つかいかた
□がうまい。

③ えん
ぴつ
□と
けし
□ゴム

④ きみ
□は
なんびよう
で
ぜんぶ
の
もんだい
□をとけますか。

⑤ すべて
□の
みず
□をつかって
ひ
□を
しろうか
□した。

国語
三十二十六
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の に当てはまる漢字を書きましょう。
かんじ か

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① のうまなまよう
をして、あせを ながす。

② 児 じ
が が
する。

③ たかおさん
高尾山に のぼる。

④ かつ
 もの
もいれば まける
 もの
もいる。

⑤ オリンピックの しようしや。

国語
三十一二十七
(書き)

第三学年の漢字(書き)

名前

年

組

番

取り組んだ日

月

日

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① この□の□はとても□。

② □には、□がたくさんある。

③ □にはどんな□があるか□。

④ □の□空似。

つぎ ぶん
次の文の□にあはまるかんじをか
に当てはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① いのち
□の□たいせつ
さをしる。
。

② ぐうぜんのさいかいに うんめい
をかんじる。
。

③ こうたい
□でくやの□おもて
にでる。
。

④ しらべた
□けっかをひょう
にあらわす。
。

⑤ ともだちの□かわり
にしゅり
せきする。

つぎ ぶん
次の文の□にあてはまる漢字を書きましょう。

おく
送りがなにも気をつけましょう。

① みどり
□ いろの □ を □ 。

② しゆつぱう
□ してしばらくすると、れっしやは
しんりよく の □ の □ に □ 。

③ いっちやく
かけつこで □ になった。

④ ゆうめい
□ な □ でピアノの □ を
する。

⑤ ある
□ か無いか、かくにんする。